

稲発酵粗飼料用イネ専用品種の特性比較

【要約】稲発酵粗飼料用イネのホシアオバ及びクサホナミは、天候に恵まれて適正な肥培管理を行えば10 a当たり2 tの乾物収量が期待できる。

畜産研究所・酪農研究部

【連絡先】0573-56-2769

【背景・ねらい】

飼料作物は、利用目的や特性の違いから多くの品種が流通している。草種のなかには毎年新品種が登場し変化の著しく早いものもある。一方、利用する農家は、多数の流通品種の能力を比較検討する余裕がない。そこで、当部では、県の奨励品種選定の基礎資料とするため、岐阜県内での栽培に適した収量性の高い品種を流通品種の中から選び出す品種比較試験を昭和57年度から継続実施している。ここでは、水田で栽培できる稲発酵粗飼料用イネの特性を紹介する。

【成果の内容・特徴】

- 1 試験開始の平成13年は、化成肥料の施肥により倒伏が発生した。平成14及び15年は施肥を中止したことにより倒伏が防止できた(表1、表2)。
- 2 葉色値は、30～50の間でへの字を示した(図1、図2)。
- 3 草丈は、ホシアオバが一番長かった。病害は、穂首いもち、紋枯病、稲こうじ病が発生した。乾物収量は、ホシアオバ及びクサホナミが10 a当たり2.0 tの高収量を示した(表2、図3、図4)。

【成果の活用面・留意点】

- 1 土壌診断に基づいた施肥を行うこと。
- 2 農薬は登録のある薬剤を使用すること。
- 3 この試験成果は、地域により異なる恐れがある。実栽培に当たっては、有望と思われる2～3品種を試験栽培し、適する品種を導入すること。

【具体的データ】

表1 飼料イネの栽培管理状況（岩村町富田地区の水田）

項 目	13年	14年	15年
播 種 日	5月 7日	4月22日	4月23日
田 植 日	5月28日	5月22日	5月20日
化成肥料(N-P-K)(kg/10a)	4 - 4 - 4	0 - 0 - 0	0 - 0 - 0
苦土石灰(kg/10a)	100	0	0
殺虫殺菌剤(回)	1(箱粒剤)	1(箱粒剤)	1(箱粒剤)
除草剤(回)	2(イネ科、広葉)	3(イネ科、広葉)	2(イネ科、広葉)
調 査 日	10月15日	10月9日	10月3日、7日

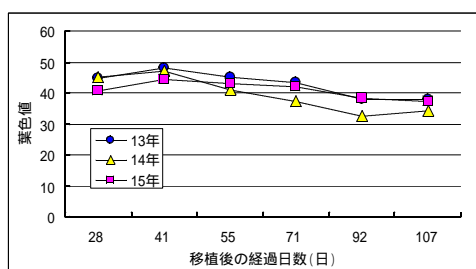


図1 葉色値の推移(クサホナミ)

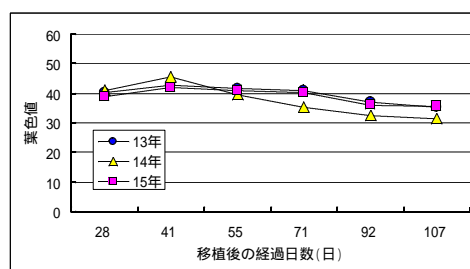


図2 葉色値の推移(はまさり)

表2 飼料イネの収量調査結果

実 施 年 度	品 種 名	収 穫 時 熟 度	倒 伏 程 度	草 丈	穂 長	乾 物 収 量	穂 重 割 合	病 害
			%	cm	cm	t/10a	%	
13年	クサホナミ	黄熟期	95	109	18	2.0	51	—
	はまさり	黄熟期	30	115	18	1.8	39	仔疇
14年	ホシアオバ	完熟期	0	113	21	2.0	65	仔疇、紋枯
	クサホナミ	黄熟期	0	105	20	1.9	47	仔疇、紋枯
	クサノホシ	黄熟後期	0	109	18	1.7	38	仔疇、紋枯
	はまさり	黄熟期	0	105	17	1.7	46	仔疇、紋枯
15年	クサユタカ	完熟期	0	102	22	1.2	60	仔疇、紋枯
	ホシアオバ	黄熟後期	0	110	20	1.7	55	仔疇、コウジ
	クサホナミ	黄熟期	0	105	16	1.5	48	仔疇、コウジ
	クサノホシ	黄熟期	0	109	18	1.5	43	仔疇、コウジ
	はまさり	黄熟初期	0	101	16	1.5	39	仔疇

注：イモチは穂首いもち、紋枯は紋枯病、コウジは稲こうじ病を示す。

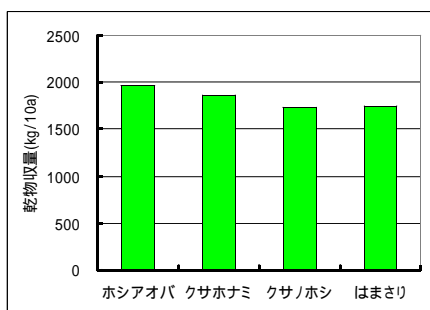


図3 平成14年度の乾物収量

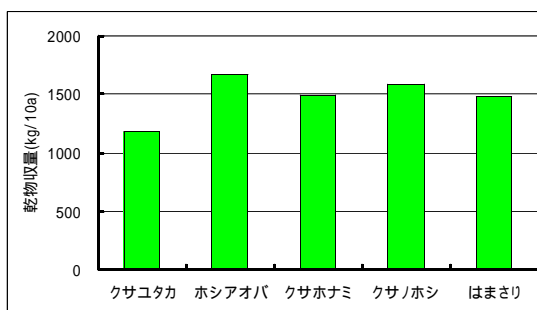


図4 平成15年度の乾物収量

研究担当者：長縄寿信